

「口腔が及ぼす身体への影響」と題して

栃木県歯科医師会理事 植原雅章

国民医療費の推移を見てみると、歯科の比率は右肩下がりであり、歯科界がますます厳しい環境におかれていることは歯科医師のみならず、パラ・デンタルスタッフ全ての方々が感じていることと思います。

一方、国においては、生涯に渡り自分の歯で食べることは生活の質の維持・向上につながることから「8020（ハチマルニイマル）の運動推進事業—80 才になっても自分の歯を 20 本以上保つための事業」を推進しております。また栃木県においても総合的な健康づくりの指針である「とちぎ健康 21 プラン」の重点項目の一つとして 8020 推進事業をはじめ、ライフステージに応じた各種の歯科保健事業に取り組んでおり、歯科に関する注目度が高まっていることが伺われます。

さらに近年「口腔（口と歯）の健康」と「全身の健康」との関係について研究が進んでおり、口腔の健康の悪化が肺炎の発症につながることや、歯周病と糖尿病との関連が明らかになるなど口腔内を清潔に保ち、口腔ケアを推進することが全身の健康のために重要であるとの報告もなされております。また超高齢化社会を迎えている日本では、口腔衛生状態の悪い要介護高齢者の口腔ケアの重要性が、医療誌に留まらず広く一般誌にも取り上げられることが多くなりました。

そのような現状を踏まえ、口腔が身体に及ぼす影響を理解していただき、その重要性を歯科関係者だけでなく、一般の方々にも知っていただき、その上で歯科界が少しでも元気を取り戻すことを祈ってやみません。そんな思いを胸にお話をさせていただきます。